紅、淡赤に淡青を帶たり、白、極白あり、並白あり、藍、大輪濃色あり、並花あり、大葩なるものあり、俗に是を六葉といへり、此花に青色はなし、いづれも變色花なり、方陽面、地水邊の濕地よし、常に水の滯らぬやうにすべし、肥淡小便、春芽出し前に澆ぐべし、下種春彼岸にすべし、されど成長遲し、分株春秋兩彼岸ともよし、分株の方は分べき株を、地中にて缺とるべし、殘る親株動痛ずして榮はやし、○略中

四季咲燕子花　花の色青し、開花八十八夜頃より四月中旬迄咲也、又夏の土用より咲出して、漸漸に年中花あり、方地分株等春の花と同じ、

〔剪花翁傳三五月開花〕四季咲燕子花　花青色、開花五月中旬より咲なり、是二度目にて夏の花なり、又土用より秋の花出る、夫より凡十一月まで節々花出る、故に四季咲の稱あり、育方は三月燕子花と同じ、

〔草木六部耕種法十需花〕燕子花モ品類多ク、四季ニ開モ有リ、且紫花アリ、白花アリ、白花ノ紫斑アルヲ鷺尾ト云ヒ、紫花ノ紅ヲ帶タルヲ蜀江ト云フ、花大ニシテ六瓣アルヲ六曜ト名ク、此物ハ池沼溝等總テ水ノ淺キ處ニ繁生スル者ナルヲ以テ、盆植ニセンコトヲ欲セバ、根傍ニ干鰮ノ類ヲ刺込テ、時々意ヲ用テ水ヲ澆グベシ、

〔萬葉集七譬喩歌〕寄レ花

墨吉之淺澤小野之垣津幡衣爾摺著將衣日不知毛、

〔伊勢物語上〕むかし男有けり、その男身をえうなき物に思ひなして、京にはあらじ、あづまの方にすむべき國もとめにとて行けり、○略中みかはの國八はしといふ所にいたりぬ、○略中其さわのほとりの木のかげにおりゐて、かれいひくひけり、そのさわにかきつばたいとおもしろく咲たり、それをみてある人のいはく、かきつばたといふ五もじを、句のかみにすへて、たびの心をよめと